

未来の  
日本を  
創る

農業  
担い人

THE FUTURE of  
JAPAN CREATE

# 農

## PROFILE

むらまつ せいや  
村松 征弥 さん

MURAMATSU SEIYA

29歳

弥富市鍋田町



## 愛情と工夫で育てる、 若き養豚農家の挑戦

弥富市鍋田町で養豚業を営む村松征弥さんは、LWD種を中心に約2,500頭の豚を飼育し、年間約4,000頭を名古屋市場や養老ミートへ出荷しています。就農10年目を迎えた村松さんは、父や兄、親族、従業員ら計8名で協力しながら、分担して作業を行っており、地域の食を支える担い手として日々現場に立ちます。養豚農家の家に生まれた村松さんは、幼い頃から豚の世話を手伝ってきました。小さい頃から身近な存在の仕事であったことや、豚の成長を見守る中でやりがいを感じたことで、就農を決意しました。

朝は餌やり作業から始まり、豚舎の見回りや体調管理、

餌づくり、設備の修繕など、1日を通して豚と向き合います。体調不良の豚を見つけた際は早期に治療を施し、餌はパンや麺くずなどを機械で配合しカロリー計算を行うなど工夫を重ねています。特に出荷前には、麺くずを餌に加えて脂を締めることで、より美味しい豚肉に仕上げるのがこだわりです。

一方で、豚は暑さにも寒さにも弱く繊細な動物のため、季節による環境管理は欠かせません。夏は扇風機やミストを使用して暑さ対策を行い、冬はヒーターや飼育密度を調整して寒さを防ぎ、豚舎内を適温の20〜23度に保つなど、細やかな管理を行っています。また、豚熱や肺炎、豚レンサ球菌の発生を防ぐため、餌に薬を混ぜたりワクチンを接種したりして予防しています。

「病気などにかからないように、愛情をもって育てることが1番大切」と語る村松さん。10年後には母豚を200頭から400頭へ増やすなどの規模拡大や新たな豚舎の建設を目標に掲げ、今は一生懸命に働きながら準備を進めています。最後に「美味しくなるようにこだわった餌とたくさんさんの愛情で育てていますので、ぜひ召し上がってください」と笑顔でメッセージをいただきました。



▶ 餌やりをする村松さん



▶ 飼育している豚